

優秀賞 東京都 越野 晶 様 (中学生 女性)

つい最近、私の父のもとに大切なお知らせと書かれた「ねんきん定期便」が届いた。中身を少しだけ見せてもらおうと、35歳、45歳、59歳の節目年齢の人に対して、年金加入記録に「もれ」や「誤り」がないか確認してほしいと書かれていた。

父によると、十年程前に年金記録問題というのが起こり、持ち主不明の年金記録が約五千万件も見つかったそうだ。そのうちの一つが私の父であった。

父によると、その当時は、毎日のようにテレビで報道されていたが、自分には関係ないと思っていたそうだ。ところが、年金記録確認のための封筒が送られてきた時、父が学生時代に納めた国民年金の記録がなかったことに驚いたと言っていた。もしも、この時、年金記録の「もれ」に気がついていなければ、将来、受け取れる年金が減っていたかもしれない。そのようなことがありえるのだと思い、年金について少し興味を持ったので調べることにした。

そもそも年金というのは高齢者になったときにもらえるものだと思っていたが、年金にも様々な種類があることを知った。病気やケガをし、働けなくなったときにもらえる「障害年金」、病気や不慮の事故で亡くなったときにもらえる「遺族年金」というものがある。改めて考えてみると、もしも、今、私の両親に何かが起こった場合、今の生活がどうなってしまうのかすごく不安になった。年金は将来、年老いて働けなくなったときのためだけではなく、今の家族を守るための大切な制度であるということを父が言っていた。私にとって年金というものは遠い将来のことで私には関係ないと思っていた。しかし、そのようなことはなく、非常に重要な制度であることを知った。

その年金制度が、今、大きく揺らいでいるようだ。

その一つが、「少子高齢化」による現役世代の減少である。今の年金は、保険料を納める現役世代が高齢者に渡すという形になっている。調べてみると、1975年には八人で一人の高齢者を支えていたが、現在では三人で一人を支えている状態になっている。それが、あと二、三十年後には一人で一人を支える、おんぶ状態になってしまうようだ。

さらに、国民年金の納付率が低いことも大きな問題である。少し改善したとはいえ、納付率が六割前後と低い。このままこの状態が続くと、この制度が成り立

たなくなってしまうのではないかと私は思う。この納付率を上げることはとても重要だが、なぜ納付率が上がらないのか。現役時代に自分で納めたお金でさえも、年金として受け取ることができないと考えているからではないだろうか。また私と同じように、年金は将来のためだけではなく、現在のためでもあるということを知らない人が多いからではないかと思う。もっと年金の役割について、若者が知る機会が必要だと思う。ただ、年金の役割を理解し、納付率が上がったとしても、根本的な解決にはつながらない。この年金制度の問題に対する解決策は、容易に見つかるものではないが、まずは年金の大切さを友達に伝えていきたいと思う。また、私が二十歳になった時には必ず年金を納めていきたい。

そして、これからも、年金についての報道を意識するとともに、私自身、年金について考えていくようにしたいと思う。

